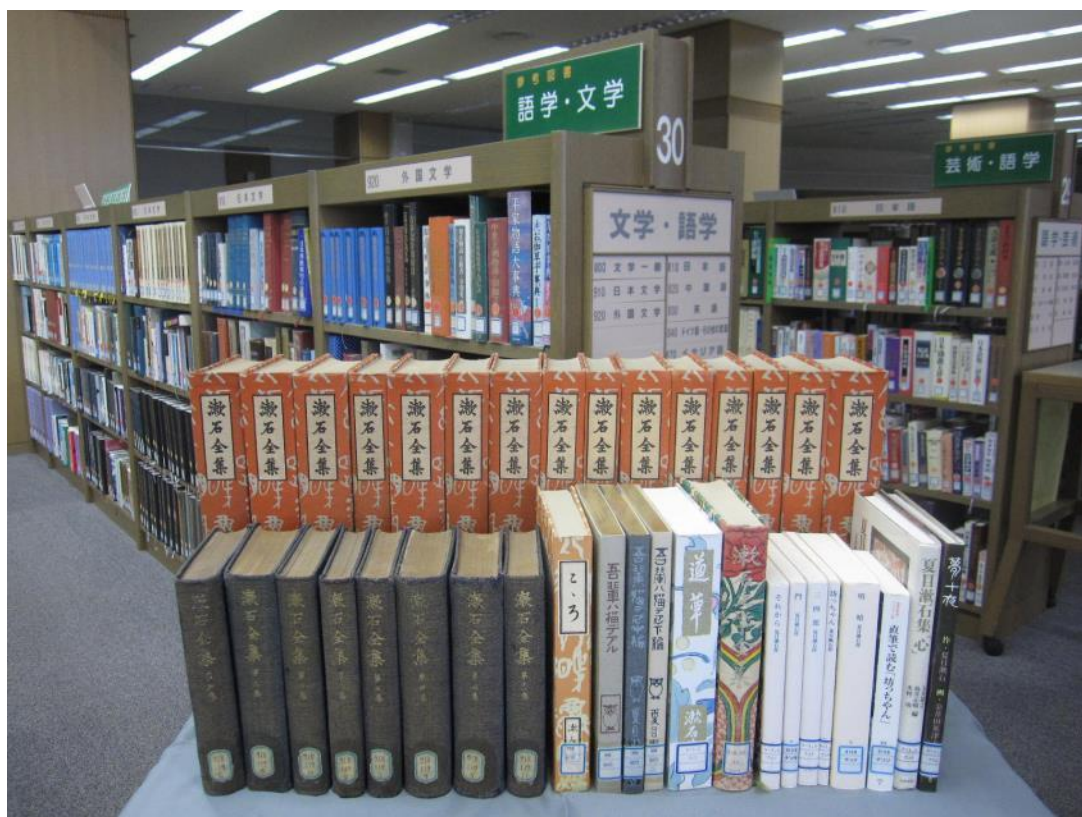




漱石没後百年

秋田県立図書館長 高橋 貢



(県立図書館所蔵の夏目漱石関連資料の一部)

来年は、夏目漱石没後百年、その翌年は生誕百五十年にあたる。出版界をはじめ、漱石が一大ブームになる（メディアがブームを創り出す）予感がする。先日、全国の文学館や図書館の現代作家展示について調べていたら、偶然「漱石没後九十九年」という企画を実施している北九州市の館を発見し、その出足のよさに少々驚いた。ついでに調べると、熊本では、既に県全体が来年に向けてスタンバイしているような印象である。関係する地元は、地域創生の一環としても大いに期待しているようである。私は、実は高校以来現在に至るまで、漱石の熱心な「信者」である。むろん、専門の研究者ではないので学問的にはまったくの素人であり、できるだけ人には話さないようにしてきたが、勤務していた高校の生徒たちにはよく語りかけた、というよりも、集会等では漱石の話しかしなかったように思う。

最後の卒業式の式辞で、次のように述べたことを今でも記憶している。「この三年間、式典や集会のたびに、諸君には意識的に夏目漱石の話をしてきた。何故ならば、西洋文明が怒濤の勢いで押し寄せた明治の時代に、外圧に流されない内発的開化を主張した漱石の生き方や世界観が、今の時代でも本質を突いていると思ったからである。また、トラブルの絶えない現実社会や、自国の権利のみを主張し合い諍いの絶えない今の国際社会を見ても、人間のエゴイズムの超克をテーマにした漱石の作品は、極めて現代的であり、また永遠のテーマを含むと考えたからである。」

漱石の作品や日記には、ドキッとさせられる言葉が随所にある。私は勝手に、その言葉を師の言葉のように何度も心に浮かべ、これまで何とか生きてきたようにも思っている。恥ずかしながら、自分の中では、漱石は「恩師」である。

「牛になることはどうしても必要です」（芥川龍之介宛の書簡）。

「私は今より一層淋しい未来の私を我慢する代わりに、淋しい今の私を我慢したいのです」（『こころ』）。

「昔から、何か成し遂げようと思えば大概は独りぼっちになるものです。君は、自分だけが独りぼっちだと思うかもしれないが、僕も独りぼっちです。独りぼっちは崇高なものです」（『野分』）。

若き日々、これらの言葉には何度も励まされたように思う。そして今でも。

是非来年は、漱石の常設コーナーを設け、月別にテーマを変え、漱石を通して我が国の近現代を俯瞰してみたいものだと考えている。我が国の将来への、何らかの希望が見えてきそうな気もする。企画を考えるのが、今から楽しみである。

県立図書館は子どもの読書推進のため学校図書館を支援しています 学校図書館の活性化支援とその取り組み

県立図書館では、高等学校や特別支援学校図書館への支援として、セット貸出や学校図書館訪問等、様々な事業を行っています。また、小中学校の学校図書館に対しては、市町村を経由して資料の貸出や研修会を実施する等、県全体における学校図書館の活性化を支援しています。今回は、これらの取組についてご紹介します。

1 セット貸出



セットの中には看板も入っていて、本と一緒に並べるだけで展示コーナーができるようになっています。

高等学校や特別支援学校に対して、テーマ毎に約30～40冊の本を1つのコンテナに入れて貸出しています。人気のセットは小説、料理、趣味、仕事等です。10月には新たに評論文や農業等5テーマ10セットを加え、51テーマ171セットの中から選べるよう充実を図りましたので、学校図書館の中で展示するだけでなく、授業で活用することもできます。セット貸出の内容は今後も充実していきます。

2 学校図書館訪問



実際に学校図書館の書架を見ながら、担当教職員に具体的なアドバイスを行います。

県立図書館職員が高等学校や特別支援学校の図書館に訪問して、図書館業務に関する相談に応じえています。

今年度は秋田高校、秋田南高校、横手高校、

横手城南高校、秋田きらり支援学校の5校を訪問し、図書の整理や展示の仕方等について助言をしました。

学校図書館の担当教職員と直接話をすることで、状況に応じた効果的な助言ができます。メールや電話等で細やかな支援ができる体制も整っていますので、今後も学校図書館の要望に応えていきます。

3 学校図書館職員等研修会

学校図書館や図書委員会活動の活性化を目的とした研修会を、担当教職員や図書委員の生徒を対象として、県立図書館で毎年1回開催しています。



昨年度の情報交換で出された他校の取組を、今年度の活動に活かしたという学校もありました。

今年は「事例から学ぶ学校図書館の課題と改善策」と題して講義を行い、参加校の学校図書館の写真を見ながら、工夫している点の紹介や課題になっている

点の改善策の提案をしました。また、後半は「効果的な展示方法」や「貸出冊数を伸ばすための工夫」等について情報交換が行われ、他の学校の活動を知る貴重な時間となりました。

4 ライブラリー+1研修

小中学校の図書館に対しては、市町村を通して資料の貸出を行っておりますが、市町村が開催する学校図書館、図書館ボランティア等向けの研修に県立図書館職員を講師として派遣しています。



「学校図書館ビフォー・アフター」では、古い本を片付け、本の表紙を見せる作業等を行いました。

今年度は「館内展示のワークショップ」「学校図書館ビフォー・アフター」「学校図書館活性化のためのワークショップ」等8回の研修に講師を派遣し、

学校図書館における読書活動の推進を図っています。

貴重資料等のデジタル化現在進行中!

昨年度末より、県立図書館とあきた文学資料館で所蔵している貴重資料の一部を撮影し、デジタル化する作業が進められています。



デジタル化に当たっては、専用の機材を用いて1コマずつ撮影しています。

デジタル化の対象は、平成26年3月に県の文化財に指定された『根本通明文庫』をはじめ、秋田魁新報の社長を勤めた安藤和風のコレクションである『時

雨庵文庫』、郷土人の遺墨や書画、文学資料館が所蔵する郷土人作家の直筆原稿等、バラエティに富んだものとなっております。

貴重資料の中には、長い時間の経過により劣化が進み、閲覧が難しくなっているものもあります。そのような資料も、デジタル化することで再び利用することが容易になり、また後世に現在のままの姿を伝えて行くことが可能になります。何百年も前の資料でも、気軽に閲覧でき、より身近に感じられるよう努めてまいります。

北日本図書館連盟研究協議会 「図書館が変わる・地域が変わる」

10月1日・2日、平成27年度北日本図書館連盟研究協議会・第39回秋田県図書館大会が県庁第二庁舎で開催され、北日本地区の図書館職員など約150名が参加しました。



小林是綱氏には、これまでの図書館での勤務経験も踏まえて多角的な視点で図書館の役割についてご講演いただきました。

一日目は、NPO地域資料デジタル化研究会理事長の小林是綱氏により「図書館が変わる・地域が変わる—出版不況時代と地方書店の閉店、

公共図書館はどうする?—」と題した基調講演が行われました。現在の出版状況の変化も交え、図書館に求められる役割についてご講演いただきました。

続く事例発表では、はじめに新潟市立中央図書館係長の祖父江陽子氏から、ビジネス支援や行政職員への支援等、現在図書館に必要とされているサービスについてお話しいただきました。



東成瀬村の事例発表では、様々な機関と連携した村ぐるみでの子どもの読書環境整備について報告がなされました。

県内からは、子どもが本に親しむ環境整備の取組が盛んな東成瀬村なるせ児童館長の谷藤ユミ子氏から村の様々な施策についてご報告いただきました。

最後に、一関市立一関図書館副館長の伊藤清彦氏から、書店での長年のご経験を踏まえて、本の見せ方や選び方について、出版社や書店との違いも含めてお話しいただきました。会場からは多くの質問が出され、参加者の関心の高さが窺えました。



パネルディスカッションでは、前日の事例発表の補足も交えながら、意見交換が行われました。

二日目は基調講演講師と事例発表者らによるパネルディスカッションが行われ、住民の課題を解決するためのサービスのあり方や、関係機関と連携した事業

の展開等について意見交換が行われました。前日の事例発表に対する質問が多く寄せられるとともに、参加者からも日頃の取組について発言があり、前日の講演や発表の内容がより深まる時間となりました。

その他、事業説明として国立国会図書館主任司書の鈴木昭博氏より、「東日本大震災アーカイブひなぎく」の取組について紹介されました。

北海道と東北六県の関係者が集い、現在の図書館が直面する課題と今後の方策について積極的な協議が行われ、有意義な二日間となりました。

地方創生コーナーを新設



関連した新聞記事の掲示や、ご自由にお持ち帰りいただけるパンフレットの設置を行うなど、幅広く情報提供を行っています。

秋田県は平成27年度の主要課題として「地方創生」を掲げています。県立図書館は6月からこの課題を取り上げ「雇用創出の

ための産業振興」、「移住・定住対策」、「少子化対策」、「新たな地域社会の形成」に関する資料を集め、2階閲覧室ビジネス支援コーナー隣に新設しました。

高知県立図書館との観光情報交換展示



閲覧室での展示の様子。貴重な土佐和紙や民芸品を高知県内名所・名物の写真も交えて紹介しました。

交換展示とは、図書館の所蔵資料や自治体のポスター、パンフレットを交換して、お互いの都道府県を紹介し合い、観光に結

び付ける取組です。

今年度は6月に高知県立図書館と実施しました。高知では「秋田さ、来てけれ～！」と題して、秋田県の観光ポスターやなまはげの面等を展示しました。当館では、エントランスホールで高知県の観光ポスターの展示と観光パンフレットの提供をしました。また閲覧室では「高知へ来んかえ？～高知県観光資料展～」と題して、観光ガイド、出身者の伝記等を展示・貸出しました。

■秋田を学ぶ講座シリーズⅦ

「秋田の文学について語る」

【日時】 10月31日（土）13:30～15:00

【会場】 県立図書館3階「多目的ホール」

【講師】 秋田大学教育文化学部准教授 山崎義光

【定員】 60名（参加無料）

■平成27年度「秋田県読書フェスタ」

【期間】 10月24日（土）～11月3日（火・祝）

※期間中、県内の図書館等で読書に関するイベントが開催されます。

【県立図書館の開催イベント（申し込み不要）】

10月31日（土）

15:30～16:30 プロムナードコンサート

11月1日（日）

12:00～12:45 プロムナードコンサート

13:30～15:30 おはなしタイム

15:30～16:00 ギャラリートーク

■秋田を学ぶ講座シリーズⅦ

音楽セミナー「歌とことば」～自然への思い～

【日時】 12月12日（土）13:30～15:00

【会場】 秋田県生涯学習センター3階「講堂」

【講師】 秋田大学名誉教授 佐々木久春

二期会会員 土崎宏人

【定員】 100名（参加無料）

これからの休館日

11月4日（水）

11月9日（月）～15日（日）（特別整理期間）

12月2日（水）

12月28日（月）～1月3日（日）

1月6日（水）、2月3日（水）、3月2日（水）

※休館日に図書や雑誌を返却する際は、正面入口横にあるブックポストを御利用ください。